

## 行動問題質問と回答

自由時間に闘いごっこ延長で喧嘩になることが多いです。闘いごっこ自体を制限するか、時間をうまく区切るか、どのような方向で考えていけば、児童のよりよい学びになるのかご助言いただけると幸いです。

A:けんかになったとき、けんかになった原因、どのような闘いごっこになればよいか、そのためにはどのようなルールを決めればよいかについて、子どもたち自身で（職員さんも関わって）話し合っただけで決めることをぜひ実践ください。一度では、完璧なルールはできっこありません。何度も何度も失敗してはルールを作り直すを繰り返す、その間に、適切なはびねす東和田版闘いごっこの遊び方がつくられていくと思います。そして、この間に、子どもたちは、問題が起きた時の解決の仕方を学んでいくと考えます。

①ADHD 傾向のお子さんが複数いた場合、一人に費やす時間がかかってしまう為、どのような対応が適切か？

A:なにに時間を費やすのかが不明ですが、費やす時間が必須なものであれば、それはどうにもしようがないと考えます。しっかり費やしてあげてください。しかし、費やし方に非効率な部分があるとすると、時間がかからないような工夫をすることが必要かもですね。もう一つは、毎日、すべての ADHD の子に全く同じ支援をするという発想を少し変えて、軽重をつけてよいと考えます。今日はA 児にどっぷり関わり、そのときはBCD 児には普通にかかわり、別の日には、B 児にどっぷり関わって、ACD 児には普通にかかわって・・・というふうに、でも一定期間でみればちゃんと平等に支援は行き届いているというようなマネジメントはありだと考えます。

②逆に、大人しいお子さんに対し、声がけをするも反応が無い時等、更に声掛けするとしつこいと感じられたり、逆に放っておくと寂しい思いをするであろうと思われるため、対応に迷います。

A:どの程度のコミュニケーションがとれるお子さんかわかりませんが、仮に重度のお子さんであっても、しつこいと感じているか寂しいと感じているかは、尋ねるもしくは反応を忖度することで相手が受け取っている思いや感情を察してください。このためには、ご家族や学校など本人のことを詳しく知っている他の人や機関の協力、その子がどのようなことをしつこいと感じたり、寂しいと感じたりするのかの追加アセスメント情報が必要です。話ができる子であれば、直接質問して確かめるとよいと思います。理解ができていないけど、ことばでの表現が難しい場合は、絵カード等を活用して指差ししてもらおうなどの方法をためしとみるといいでしょう。

③送迎の関係で、中の様子を見る職員が不足しており、十分な対応が出来ているか心配になる。

A:これは、私が回答する内容にはなりません。そう思うのであれば、どうぞ上司、会社と人を増やす交渉をしてください。学校の放課時間が決まっており、そこには迎えに行くという物理的な対応が決まっている以上、工夫のしようがありません。このような状況はどの放課後デイでも起きます。新たに事業所を開設する場合であれば、一度に向かわないといけない送迎場所が増えすぎないように利用者の契約を調整することが唯一考えられる解決策だと考えます。

④声の音量の調節ができない子（過度に興奮してしまう子も含む）に対する対応に苦慮してしまう。

A:研修の中でも回答しましたが、録画して本人と一緒にこの声の大きさをどう思うか振り返る、デシベルチェッカーみたいな音の大きさを計る装置で出した値を本人と振り返るのはどうでしょうか？（私はまだやったことがありません・・・）本人が、自分の声の大きさに「気づき」、「なんとかせねば…」と思わないことには、この問題の解決のスタートラインにも立てないと思います。

①5歳の男の子です。普段から他のお子様への他害(噛む、髪を引っ張る、突き飛ばす)があり、声をかけると「バツ」と自分で言いながらも少し経つとまた繰り返しているお子様です。職員に対しても昼食中に口に含んだご飯を吹きかけたことがありました。そのような人としてやってはいけないことに関して、言葉の理解が曖昧なお子様にはどのような声掛けをしたら良いのか知りたいです。

A:まさに行動問題の典型的なケースですね。研修の中でも触れましたが、まずなぜその行動が起きるのか、ぜひ原因を探ってください。そのためには、いつ、どこで、どんな行動が起きているのか？そしてその結果、本人にはどのようなことが起きているのか？(行動の4つの機能のどれが関係しているのか？)記録をすること、そして、TODAY 柿生以外の家庭や保育園？などではどのように起きているのかの情報を収集してください。次に、集まった情報から、原因を特定し、①明白な原因が特定されたとしたら、その原因となる状況をそもそも子どもの前から取り去ってしまうこと、あるいは、子どもの問題行動の結果(本人へのメリット)があるのであれば、その結果を決して与えないこと(よくあるのが、注目を得たい=スタッフにかかわってほしいという場合ですが、その子は、なにかをやらかして職員にかかわってほしいということが機能=目的であるとすれば、問題行動を起こす前にしっかりかかわってあげることが方策となります)②問題行動が減少、収まったら、望ましい行動様式をインプットもしくは獲得させるステージへと進みます。このような考え方は、以下のURLに書かれている文章がとても参考になると思います。(URL : <https://www.aba-saitama.com/p/15/>)

②4歳の男の子です。人への興味が出始めたのですが、距離が近すぎてしまうことがあります。特に女の子や幼く見えるお友達への距離が近くなりがちです。また、職員のマスクを取って顔を近づけようとすることもあります。このようなお子様に対して適切な距離感を伝えるのに効果的な声掛けを知りたいです。

A:適切な距離感を伝える前に、やはりその子は、なぜ、人との距離が近すぎてしまうのか要因の分析が必要です。つまり何のために？(これは本人が意識できている場合は、むしろ少ないかもしれませんが。専門家としての私たちが、発達や心理の面から推測することになると考えます。ですから、TODAY 柿生の情報だけでなく、幅広く情報を集めることが重要です)距離を近づけているのかをまず支援者側がわかっておかなければなりません。そして、次に、距離が近すぎることはなぜ不適切なのか？を子どもが認識しなければなりません。意味も分からず遠ざけられたところで効果はなかなか出ないと考えます。距離が近くなることの問題点を4歳のこの子が理解できるように解説をしてあげてください。それができたのちに、取り組みを開始し、距離が近すぎなかったときにしっかり賞賛(ごほうびを与える)ことにより、この近づき過ぎない行動を強化(増やす)していくのです。考え方としては、近づきすぎたときの声掛けをどうするか？については、あまり考えず(淡々と「はい離れすぎ」と言いながら適切な距離まで遠ざける)、適切な距離を保つことができたときにしっかりごほうび(賞賛)して、適切な行動を強化することを重視してください。だれしも、注意をうけるより褒められたほうがうれしいに決まっています。このほめる場面を作り出すのが、児童発達支援が求められている専門機関としての役割だと考えます。けっこうな期間をかけて、徐々に適切な行動を形成していく大変な作業だと思いますが、この就学前のお子さんの時期に、適切な療育機関が、このような問題をしっかりとらえ、学校に上がる前までには不適切な人とのかわり方が是正されるようにしてあげる作業は、この子の将来(人生)にとって、とてつもなく大きなプレゼントになると思います。ぜひぜひがんばってください(^^)。

中高生思春期多感な時期のお子さんが多く、人との物理的距離感が近い児童が多いです。男女で肩が触れ合う近さのときに「距離近いよ」と声をかけますが「これくらい普通だよ」と本人たちは近いという印象がないそうです。どう対応していけばよろしいでしょうか？また放デイとして性教育についてどう伝えていけばよいでしょうか？

A:距離の問題は、前出の回答を参照ください。まず、なにをもって「近い」とするのかを職員間で十分議論してください。問題を難しくするのは、愛し合っている人同士の場合、むしろ距離があることは大問題ですよね?「なぜもっと近くに寄ってくれないのか?」ってなりません?(笑) 何が言いたいのかというと、その行動の是非は、自分ではなく、「相手」がカギを握っているのです。このようなことから、子どもたちと距離の問題をしっかりと話し合うとき(療育活動として「人との距離を考える」みたいな取り組みがあってもいいかもしれません。)自分がどう思っているかが、相手が「不快」に思ってしまうと、その行動自体は「不適切」と判定されてしまうことを十分に議論、理解しておくことが必要になると思います。反対も受けるかもしれませんが・・・私は、放課後デイの中で近いのは(相手が不快でない範囲で)ありかもと考える派です。「ジョブ若槻の中だけは、近いのはありけど、ほかのところ、社会一般ではだめだよ」としたほうが、本人たちには受け入れやすいのかも?と思ってしまいます。放課後デイは、このような失敗?が許される場所だとも考えるので、ここでは、許されるけれど、ほかでは絶対に気をつけなさい!のほうが子どもたちに入りやすかな~と考えたりもします(ただちょっと自信もないです...)。しかし、思春期の問題、性教育の問題は、障がいがある子たちにとって特に深刻な難題です。私は、学校とも連携をとりながら、思春期の子たちの性的問題も療育で取り上げるべきだと思っています。特に、軽度知的障害の子たちに対し、避妊の方法などは絶対に教えておくべきだと思っています。学校や家庭とも十分に連携をとって、就労を目指す子たちに関係する重要な療育内容の一つである性教育に十分に課題意識をもっていただき、ぜひ、他の事業所に先駆けてこのような問題にも取り組んでいる療育機関であることをアピールされてください!

**①他児との物の貸し借り等で言葉にうまくできず、すぐに手が出てしまい、そのままヒートしてしまう児童への対応方法。**

A:研修の中でも少しだけ取り上げましたが、①このような場面そのものをなくしてしまう。つまり物の貸し借り自体がないような仕組み、環境を用意すること。②貸し借りの技術を身につけるための SST を随時行うこと。③本人にとって望ましい行動はどんなことかを明確にして、その力が身につく療育活動を展開する(個別支援計画におそらく書かれているだろうと推測します)ことにとり組んでみてください。

**②職員とのみの会話を好み、他児との関りを避けようとする児童への対応方法**

A:応用行動分析の分化強化の考え方を実践してみてください。あえて、職員との会話を制限せず、しかし、全く評価もせず、ただ淡々と受ける。一方、他児とのかかわりが見られた際に、恐ろしく褒める。これを徹底して繰り返せば、人は、褒められるほうに間違いなく行動を寄せていきます。これは、本能です(^^)いまは、職員さんと会話をするほうが本人にとってメリット感があるからこの行動が強化されている状態です。

**③気持ちが落ち着かなくなった児童への切り替えの仕方、場所等。**

A:場所については、刺激が極力少ないクールダウン室、もしくはスペースを確保してあげてください。時間はかかっても「切り替えができたなら出ておいでね」で全く構わないと思います。切り替えの仕方は、なかなか人によって違うと思いますので、一概には回答しにくいですが、ただ、その前に、本人が「切り替えをうまくなりたい」と思っているかどうか重要です。これさえしっかり本人が認識できれば、切り替えの問題は確実に前に進んでいくと考えます。具体的な支援としては、切り替えにかかった時間を職員さんが記録をしていて、もし短く変わってきているという成果が見えたとしたら、褒めどころができそうですね(^^)

**④距離感が近すぎる児童への対応方法。**

A:上述の回答を参照ください。

小学 4 年生の児童です。職員が手の掛かってしまう低学年の児童の対応に追われてしまうことに対して「小ちゃいやつばかり」という発言から始まりイライラして手を出してしまう児童がいる。手を出してしまった事に対し職員が注意をすると涙を流し黙って個室にこもってしまう、職員に手を出してしまうなどの行動がみられます。そのような際の、①声かけの仕方②トラブルになってしまう前にどうしたらよいか③児童へのフォロー等、具体的に教えて頂きたいです。

A:兄弟はいますでしょうか？家庭で満たされていないのでしょうか？「小ちゃいやつばかり」発言がでる要因はどこにあるのでしょうか？この分析が最初です。そして、この要因に対して対応策を立てなければなりません。この文章だけから想像できるのは、「ぼくにもかかわってよ！」とのメッセージが想像されますので、これを満たしてあげなければなりません。本人や家庭とも十分話し合ったうえで、この子に一定時間、職員がつきっきりでかかわってあげる『ビップ待遇タイム』なんて取り組みはいかがでしょうか？まあせいぜい10分くらい・・・ 質問にお答えします。手を出してしまった後の声掛けなんて必要ありません。さっさとクールダウンスペースに行き、落ち着いたら出てきてねで構わないと思います。②「小ちゃいやつばかり」発言が出た際に、「ぼくにもかかわって！」という要求に対する返答をしなければなりません。「これがおわったら、〇〇くんのところに行くからね」とか、「〇時になったら来るからね」とか本人の要求、メッセージに応じてあげる反応が必要です。これが、本人の要求（機能）とスタッフの対応がマッチングしていればトラブルは起こらないと考えます。③その子へのフォローですか？⇒研修でもお話ししましたが、ぼくにもかかわってよ！という気持ちはわかりながらも、やったことはよくないことなので、きっちり次からどうするか約束を本人と職員さんとで決める話し合いをしてください。そして、それ以降は、その約束に沿って対応してください。くれぐれも約束を守ったとき（つまり、なにも問題を起こさなかったとき）を絶対に褒め忘れないでください。

#### ・他害がある児童への対応、声掛け

A:直前の回答を参照ください。

#### ・運動やイベントに参加しない、参加できない児童へのアプローチの仕方

A:なぜ参加しない、できないのかの分析はできていますでしょうか？厳しい言い方になりますが、私は、子どもが、「参加したい」イベントや療育活動になっていないのであれば、そこに参加させること自体、虐待以外のなにものでもないと考えます。とにかく子どもたちが、「それ参加したい！」「それやってみたい！」と思える療育内容をぜひ提供してあげてください。その準備を精一杯したうえで、参加しない、できない子たちの原因をじっくり探ることが必要だと考えます。たとえば運動に苦手意識が強く、うまくできないのをみんなに見られてしまうことがいやなので参加しないとか・・・

#### ・おもちゃやぬいぐるみなどを散乱させて、そのまま片付けないお子様への対応

A:片づけられないのであれば、そもそも使わせないという事業所のルールを徹底させてください。これは、話し合っただけで決めるなんて次元のものではなく、人の家に入る際に、履物を脱いで上がるといったたぐいのルールとなんら変わりがないと思います。履物を脱がずに上がろうとする人は、そもそもその家には入れないということになりますよね。

#### ・口調が強いお子様や力の強いお子様に他のお子様がつかれてしまっている場合の対応、対処方法

A:確かにありますよね。これは、いじめの構図の中にも関連する問題が潜んでいます。自分の明確な意思ではない、つかれていじめに加担してしまうといった…私は、個人的な感情が入ってしまっていますが、もちろん主導者（口調が強い子）も大きな問題は当然ありますが、自分の明確な意思がなく、つかれて不適切な言葉を発する場合は、主導者よりも何倍もきつくしかります。「なぜそのようなことばを使ったのか？」と。これには、つかれて言葉を発していますからおそらく明確には答えられないと思います。このこと自体をしっかり追及します。「理由もなく、人を不快にさせる行動は決して許されることではない！」と。付け加

えておきますが、主導者には主導者なりの要因をさぐり、別途対応しなければなりません。

・距離感が近いお子様への声掛けなどの対応方法

A：上述の回答を参照ください。

【トイレ対応について】 便座に座って排泄をすることができない児童への対応方法

A:難しい問題です。座れることがあるのでしょうか？もしあるとすれば、どの場所で、どんな場合にそれができているのかの情報を集め、事業所でどうやったらその場合が実現できるのかを工夫し、それができたときに恐ろしく褒めて、その行動を強化することしか思い浮かびません。そして、もし、どこのトイレもすべてで座ることができないのであれば、家庭に入り込んで援助する必要があると考えます。ここまでになると、果たしていち児童発達がやることなのか？微妙な部分になると思います。もちろんやってはいけないことはないのですが・・・

【食事支援について】

①三角食べができない児童への対応方法 ②食事を温めないで食べ始められない児童への対応方法

A:②なぜできないのでしょうか？発達障害の特性として、口の中で、いろいろな味が混ざるのが不快で、ひとつひとつの味を食べ終えてからでないと次の味に進むことができない子がいるとの話を聞いたことがあります。三角食べを徹底させる強い必要性があるのであれば、様々な取り組みの方法は考えられますが（例えば一口一口ずつすべてにべた付きで介助するとか…）、あまり現実的ではないように思います。決して三角食べを軽んじているわけではないのですが、日常生活に大きな課題をほかにも多く抱えているのであれば、この三角食べの優先順位は低くなるのでは…と考えてしまいました。②これもなぜそうなのか？という分析が必要だと思いますが、もし、どの場面でもこのようにしないと食べるということができない障がい特性上の課題があるとするならば、わたしは合理的配慮の範疇にて食事を温める対応がむしろ必要だと判断しますがいかがでしょうか？一方、そこを正していきたいとするならば、いきなりの方法は無理なので、例えば、一部のみ温めるとか、温めの温度を徐々に低くしていったやがて常温でも食べることができるよう段階的に取り組むとかは考えられると思います。常温、もしくは、冷たい食品はまったく食べることができないのでしょうか？これなら大問題ですが・・・

【更衣の対応について】

水滴が1滴ついただけでも着替えをしたい要求がある児童への対応方法

A:いますよねえ。この問題は、実際の生活にも大きな支障が生まれるでしょうから、徐々に是正してあげたいですね！研修でも取り扱いましたが、最も手っ取り早い取り組みは、水滴がつかない状況をつくることです。例えば水場に行かない。手を洗うとかだったらウェットティッシュで拭かせるとか、濡れてもいいエプロンを常時つけさせるとか・・・しかし、これでは先々まづいでしょうから、水滴に慣れていかなければなりませんね。着替えをしたい要求があった際、なにがなんでも着替えないと先に進めませんか？スルーすることができる場合もあるのですか？もしそうであるなら、ほめどころがありますよね！水滴がついて着替えてしまう際には、ほとんど反応せずに、水滴がついたけれど着替えずにスルー出来たときに恐ろしく褒めることで、徐々に徐々に（長期間かかることは覚悟したうえで）行動は、褒められるほうに寄っていきます！信じてください(笑)

・下半身を出してしまう。(特別支援学校：中3男児)

A:要因をさぐってください。おそらく注目であろうと推測しますが…もしそうであるのなら、彼の注目欲求を満たす別のかかわりに代替してあげる必要があります。それが遊びなのか、好きな職員さんからのかわりなのかかわりませんが、対策としては

この考え方になると思います。そして、この代替案へのすり替えと同時進行で、絶対に下半身を出す行動をさせないでください。しばらくは、べた付きになって、何が何でも阻止してください。そして、阻止すると同時に代替対応をしてください。そうすると、本人は、「あっ、下半身出さなくても俺の要求は満たされるんだ(#^^#)」となります。

・他害行為がある。(本人いわく手が勝手に出てしまう)(支援学級：小2男児)

A:上述の回答をご参照ください。でも、勝手に手が出てしまう…は、大変大きな悩みですよね。下半身を出す男児の回答と同じように、この子も手が出てしまうことが決して起きないように、何が何でも阻止してあげてください。彼の苦しみを止めてあげられるのは、身近にいるスタッフさんしかいません。ぜひ、救ってあげてください！

・車の乗り降りを嫌がる、時間がかかる。職員が抱っこして乗せるときもある。(特別支援学校：小4男児)

A:なぜでしょう？原因はわかっているのですか？こわいのかな？他の場面、例えば家の車、公共交通機関・・・はどのようなでしょう？私が知っている中では、車によってこの拒否が出る子どもさんがいます。ある特定の車が嫌で(どうも色のようですが…)そのときは恐ろしく抵抗します。この子は、何に抵抗しているのでしょうか？これがわかりさえすれば、そこに対応・対策の答えがあります。

【さいごに】

以上、可能な範囲で回答を試みましたが、本人のことも、状況も分かっていないため、回答が不十分だったり的外れだったりしている部分が多々あると思います。そのため、お子さんの様子を詳しくお伝えくださって、再度さらに具体的に質問されたい場合は、遠慮なくご連絡ください。可能な限り対応いたします。(090-8624-8882田中業務携帯)

一般的なこととして、すべての質問に共通しますが、やはり研修中でもお伝えした通りの原理原則に則って対応することが重要だと考えます。つまり、

- ① 原因を特定する(推測も含みます)
- ② レベルⅠ 原因を取り除く(その問題行動ができない・起きない状況をつくる)  
レベルⅡ 不適切行動に対して、本人のメリットになる(注目機能など)結果を決して与えない  
レベルⅢ 本人の行動機能(目的)を満たす別の代替行動案とすり替える

- ③ 問題行動に走らずに済む望ましい行動を身につける(これにはかなりの時間・期間を要します)

※ この③が、おそらく各児の個別支援計画の内容として設定されているのではないかと推測します。

このサイクルを、問題行動ごとに繰り返して対応を継続してください。

改めて、児童発達支援、放課後等デイサービスは、通常発達児に比べて課題が多いお子さんが、その課題・問題を軽減することを目的に、『スタッフさんに褒められ、よい行動の割合を増やす場所である』ことを決して見失うことがないようにご対応ください。間違っても、『抱えている多くの課題・問題を指摘・注意されに来る場所ではない』ということを心に留めておいていただくことを切に切に願います。

サンクスシェア 田中 聡